



郷小だより

茅ヶ崎市立浜之郷小学校

2024年6月28日

7月号

校長 安倍 武雄

学校教育目標 ～支えあう・聴きあう・学びあう～

子どもたちが自分を再発見し、友だちを再発見し、学ぶことの価値と意味を再発見して「人生最高の6年間」を生み出す学校、そして、その営みを通して教師も親もともに育ちあう学びの共同体としての学校でありたい。

浜之郷小学校では、4年生から6年生までの理科の学習に T.T. (チーム・ティーチングー二人以上の教師がチームを作って、協力して授業を行うことで、教育効果を高めようとする取組のことです。本校では理科専科教員と担任がチームを組んでいます。) を取り入れています。具体的には、二人の教師で授業を進める役 (T1) と子どもたちを個別に指導したり、実験・観察の準備や片付けをして環境を整えたりする役 (T2) に分かれて授業を進めることが多いです。



写真は6年生の「人やほかの動物の体のつくりとはたらき」の授業です。進行役の阿部先生が全体を指導していますが、中村俊先生はここでは、実験の手順についてそれぞれのグループに補足の説明をしています (裏でジャガイモを蒸かしてもいます。実験のために育てたジャガイモをみんなで食べました)。

これまで子どもたちはジャガイモを使って、植物は日中、二酸化炭素を取り入れ、葉ででんぷんをつくっていることを学習しています。また、そのでんぷんは養分としても蓄えられ、植物の成長に使われるということも学習しています。ならば、「動物では？」と比較して考えたくなるのが当然です。同じ事象が違う対象でも同じように行われるかを比較するのも理科の楽しさの一つです。さて、人間は栄養をどのように取り入れているのでしょうか。自分で栄養を作るはずはないし…。そして、ほかの動物では…。今回の実験では、米に含まれるでんぷんが唾液の働きによって別のものに変化することを、実際に自分の唾液ででんぷんヨウ素反応で確かめています。こんなふうに、子どもたちの？を子どもたちの考えに沿って、実験や観察の方法を考えたり、その結果から結論を導き出したりと、理科という教科は子どもにも私たち教師にとっても楽しいものです。

ただ、理科は自然を学ぶ対象とするため、子どもたちにとって魅力的な教科なのですが、私たち教師にとっては思った通りにならないことも多い教科です。実験観察のために使う道具の準備片付けにもかなりの時間を使います。子どもたちが純粋に学習に向かえる時間を確保するためにも T.T.は有効なものになっています。

子どもたちから話を聞くと、

「授業がよりスムーズになった」「わからない時に早く回ってきてくれる」「困ったらすぐに対応してくれる」「授業に集中する人が増える」…などの声がありました。ご家庭でも理科の学習についてのお話がありましたら、学校までお寄せください。

引き取り下校・一斉下校 ありがとうございます

18日の大雨対応、本当にありがとうございました。多くの保護者の皆様がルールを守り冷たい雨の中、徒歩で整然とお迎えに来ていただいたことで、子どもたちも安全にそして安心して帰宅できました。

一方、「正門前に大きな車が駐車している」「萩園橋の脇に路上駐車の車がある」などの苦情があったことも事実です。少しでも早く我が子をお迎えしたい気持ちは本当によくわかります。しかし、学校として全ての子どもたちが安全に下校するために許可車以外の車での迎えはお断りしています。「まあ、いいか…」 「一人くらい…」の気持ちが全体のルールを壊してしまうのはご存じのとおりです。

保護者の皆様のご理解、ご協力をお願いします。合わせて、災害時には必ず COCOO からのメールチェックをお願いいたします。